

## 【第6回アフリカ開発会議サイドイベント】

### アフリカにおける科学技術協力の意義と課題

国際協力機構（JICA）は、8月26日、ナイロビ市内の Sarova Panafric Hotel にて、第6回アフリカ開発会議サイドイベントとして「アフリカにおける科学技術協力の意義と課題：研究から開発へ」を開催しました。

このサイドイベントでは、アフリカの発展に科学技術がどのように寄与できるか、アフリカならではの科学技術や研究とは何かという点に加えて、アフリカの研究者がアフリカに留まって科学技術の発展に貢献する手段や、研究成果を SDGs（Sustainable Development Goals：持続可能な開発目標）も見据えながら今後の社会・経済発展につなげるにはどうするか、について議論が行われました。冒頭に岸外務大臣科学技術顧問より、我が国の科学技術推進外交の取り組みについて紹介したのち、アフリカ連合のウエドラオゴ科学技術・人材局長がアフリカでの科学技術振興の意義を説明し、科学技術振興機構の伊藤副理事より地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム（SATREPS）や科学技術国際戦略推進プログラムなどの概要紹介が、日本医療研究開発機構/科学技術振興機構の西垣主幹より日本が協力しているいくつかの研究拠点の紹介が行われました。

引き続き、ケニア中央医学研究所、ザンビア大学獣医学部、海洋研究開発機構より、感染症対策や気候変動対策における科学技術研究の成果と社会での実用事例や、それぞれの拠点での人材育成の取り組みが紹介されました。また、アフリカ開発銀行からは人材育成への取り組みが紹介され、アフリカでの教育へのアクセスは向上したものの、市場が求める内容と教育が一致していないという課題があげられ、企業が求める人材の育成と起業への支援、パンアフリカン大学を通じたイノベーションへの支援とアフリカでの科学技術イノベーション（STI）フォーラムへの協力が紹介されました。

最後に、科学技術の研究成果をより多くの国に広める必要性やアフリカにおける基礎的な研究の意義についても登壇者間で確認されました。



#### ■本イベントの主な登壇者

- ・ 外務省 岸 輝雄 外務大臣科学技術顧問、外務省参与
- ・ 科学技術振興機構 伊藤 宗太郎 副理事
- ・ 日本医療研究開発機構/科学技術振興機構 西垣 隆 プログラム主幹

- ・北海道大学 鈴木 定彦 人獣共通感染症リサーチセンター長、教授
- ・アフリカ連合 Dr. Mahama Ouedraogo, Acting Director, Department of Human Resources, Science and Technology
- ・NEPAD Prof. Aggrey Ambali, Head of Industrialization, Science, Technology and Innovation
- ・アフリカ開発銀行 Ms. Sunita Pitamber, Director of Human Development
- ・海洋研究開発機構 Prof. Swadhin Behera, Group Leader, CVPARG, Application Laboratory
- ・ケニア中央医学研究所 Dr. Matilu Mwau, Principal Research Officer, Centre for Infectious & Parasitic Diseases Control Research
- ・ザンビア大学 Prof. Aaron Mweene, Immediate Past Dean, School of Veterinary Medicine